



# Nature News

撮影：8月25日 網張の森



ノブキ (キク科)  
果実の腺毛から粘液を出します。

ひっつきむし  
ひっつきむしとは、果実やそれに連なる部分に刺などの付着するための構造があり、動物の毛や人の洋服にひっついて運ばれる果実のことをいいます。ノブキやヌスビトハギは網張の森でこの時期に見られるひっつきむしです。

動物のように自分で移動できない植物は、様々な方法で種子を遠くに運び子孫を残す工夫をしています。

種子の移動は、植物自身の動き(自動散布)・風(風散布)・水(水散布)・動物(動物散布)の4つに分けられています。



ヌスビトハギ (マメ科)  
果実の表面にかぎ状の毛が密生しています。

これらの種子はどうやって移動するのでしょうか？



ヤマブドウ (ブドウ科)



ブナ (ブナ科)



ウワミズザクラ (バラ科)



ミズナラ (ブナ科)



ハウチワカエデ (ムクロジ科)



トチノキ (ムクロジ科)

森の様子やハイキングコースについてお気軽にスタッフにお声がけ下さい。